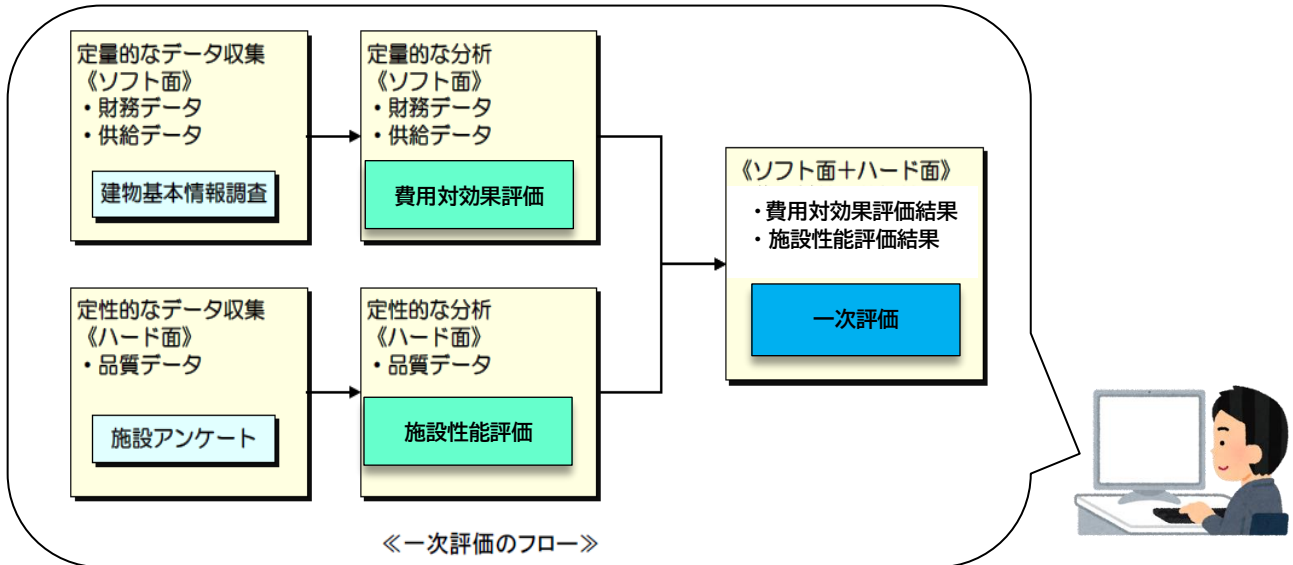


施設カルテにおける一次評価について

1 一次評価の考え方

施設カルテでは、コストや利用者数、施設の老朽化状況などのデータに基づき算出した一次評価を掲載しています。

これは、直近年度のデータを基に機械的に算出したもので、毎年の利用状況や改修工事等の実施状況により、毎年変化するものです。そのため、今回の評価結果が、そのまま各施設の今後の実施方針となるものではありません。



2 一次評価の手法

(1) 費用対効果評価

財務情報と利用情報からみる定量的な評価です。

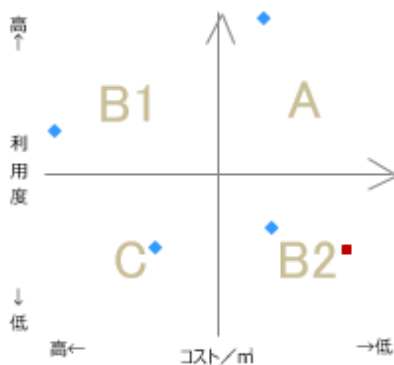
手法は、施設面積とコスト結果を用いて各施設の㎡当りコストを算出した結果を横軸とし、利用度を縦軸とした4象限マトリクス分析手法（※1）を使用し、費用対効果を検証します。

※1 縦横の2つの異なる座標を切り口として分析する手法

費用対効果評価

【費用対効果評価】

財務情報と利用情報からみる定量的な評価



区分	対応	費用対効果評価の考え方
A	継続	コストも利用度も良好
B.1	コスト改善	コストは高いが利用度も高い
B.2	利用度改善	コストは低いが利用度も低い
C	見直し	コストも利用度も不良

・軸の交差点は、用途を同じとする施設全体の移動平均値です。
 ・コスト/㎡ = 令和2年度の 歳出総額 / 施設面積
 ・利用度 = 令和2年度の 利用人数 / 開館日数

凡例： ■ … 当該施設 ◆ … 比較対象（分類）の他施設

<費用対効果評価の例>



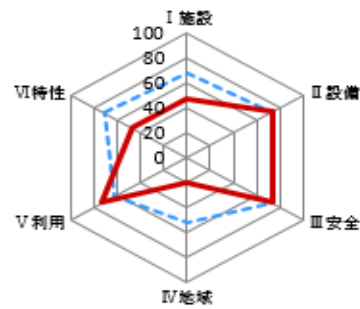
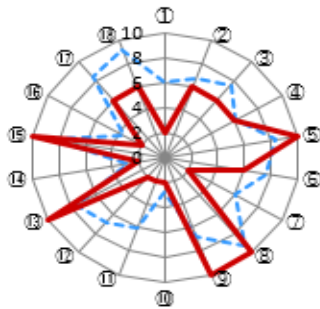
(2) 施設性能評価

施設や建物について、俯瞰的な観点から現状や課題を調査した施設管理者アンケート結果を使用します。「品質」の指標となる小分類項目について「定性的な分析」として施設性能を検証します。手法は、定量的なデータを補足するため、アンケート形式とします。アンケート回答結果は、レーダーチャートを使用し見える化することで、各施設の性能を検証します。

施設性能評価

【施設性能評価】 ■ 評価小分類によるレーダーチャート

■ 評価大分類によるレーダーチャート



— 当該施設の値
- - - 比較対象（分類）の他施設の平均値

	I 施設	II 設備	III 安全	IV 地域	V 利用	VI 特性
凡例	①屋根・屋上	④空調	⑦指摘事項	⑩保存価値	⑬周辺環境	⑥環境保全
	②外壁	⑤電気	⑧日常点検	⑪地域貢献	⑭効率性	⑦バリアフリー
	③内部	⑥給排水	⑨災害影響	⑫避難所機能	⑮利便性	⑧施設利用者

<施設性能評価の例>

(3) 一次評価

費用対効果評価及び施設性能評価の結果を使用して一次評価を実施します。

手法は、費用対効果評価を縦軸、施設性能評価を横軸とした2軸によるポートフォリオ分析手法(※2)を使用します。区分を9つに分類し、各区分に今後の方向性の考え方を振り分けます。

※2 2次元のグラフの中に配置することにより、製品やサービスの優先的改善項目を明らかにする分析手法

一次評価

【一次評価】

費用対効果と施設性能のクロス評価結果からみる方向性の位置付け



区分	方向性	一次評価の考え方	
		費用対効果	施設性能
A	長寿命化（維持継続）	優	優
B 1	施設性能向上	優	向上
B 2	費用対効果向上	向上	優
C 1	更新、大規模改修	優	改善
C 2	費用対効果と施設性能の向上	向上	向上
C 3	用途変更、運営管理方針改善	改善	優
D 1	建て替え等および費用対効果改善	向上	改善
D 2	用途変更等および施設性能改善	改善	向上
E	要見直し	改善	改善

凡例： ■ --- 当該施設 ◆ --- 比較対象（分類）の他施設

<一次評価の例>